

# 三重大学大学院 教育学研究科 教育科学専攻 案内 2018

---



## 三重大学大学院教育学研究科で、教育研究を深めませんか。

今日の日本社会は、今後さらに少子高齢化が進んでいくことが示されており、教員養成学部並びに教育学研究科は、そのあり方について岐路に立たされています。その中で教員養成の質の高度化は重要な課題であるとともに、学校教員には従来にも増して専門的な知識と実践力が必要とされており、教員研修の充実も重要な課題となっています。

このような社会的要請に対応するべく、本教育学研究科は平成29年度から、二つの専攻（教育科学専攻と教職実践高度化専攻）を持つ研究科となりました。教育科学専攻には従来通り五つの教育領域（学校教育領域、特別支援教育領域、人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域）がありますが、それぞれの領域に二つのコースが置かれることになりました。一つは教育開発コースで従来の修士課程を継承しています。もう一つは教職実践コースで、現職教員が働きながら学修できるように、夕方から夜間の時間帯で授業を履修できるコースを設けました。また、このコースには教育現場における教科の授業内容について研究を行う科目を新設しました。

平成29年度に設置された教職実践高度化専攻には、学校経営力開発コースと教育実践力開発コースが置かれています。前者は県教育委員会等から派遣される現職教員を対象としており、学校において指導的役割を担う人材の育成を目指しています。後者は学部新卒者等を対象として教職に関する実践的な専門性や高度な実践力を身に付けることを目指しています。

これによって本研究科は、新卒者並びに現職教員に対して、教科や各領域の専門性をより深め、教育科学の学問をより高度に学習すること、また学級・学校経営や生徒指導をより深く研究することのできる研究科として進んでいくこととなりました。

そして、教育学研究科においては、教員専修免許状を取得することができます。また働きながら学ぶことができるように、教育科学専攻には3年から4年をかけて修学し、修士学位や教員一種免許状を取得できる長期履修制度も設けています。教育学研究科は修了後、教職や教育関係の職種に就いて活躍する人が多く、本学や他大学の大学院博士課程に進学するなど教育研究に携わる人もいます。また今まで県内各地の教育現場から本研究科に派遣された現職教員については、高度専門職業人として教育における指導的な役割を果たしています。

子どもたちの「確かな学力の向上」、「健やかな身体の育成」、「豊かな社会性の涵養」など、大学卒業後も教育に関する専門的な研究を進めたい方、学校現場での教職経験を活かしてさらに専門的な深く広い視点からの教育研究を進めたいと願っている学校教員の皆様、ご入学を心からお待ちしています。



教育学研究科長  
鶴原 清志

### 理念・目的

教育学研究科は、人間の発達および教育に関する高度な専門的研究を進めると共に、教育現場における諸課題の解決にリーダーシップを発揮できる人間性豊かな教員の養成のための高度な教育・研究を行うことを目的とします。

## 教育学研究科 教育科学専攻 アドミッションポリシー

- 教育に強い関心を持ち、その専門的研究を進めていくための意欲と素養を有している。
- 将来、教育の分野において専門の職業人を目指している。
- 現場での経験を有する者については、現場での経験を基に、専門的な研究を進める意欲がある。

## 履修方法及び学位

### 教育課程編成の要点

授業科目は、①学校教育及び特別支援教育に関する科目、②教科教育に関する科目、③教科に関する専門科目、④教育特別研究、⑤課題研究の5部門によって構成されている。

- (1) 学生の履修にさいしては、これら5つの部門が互いに遊離することなく、総合的な機能を発揮できるよう配慮した。すなわち、教員による個人指導の側面を強めることによって学生の資質と個性に応じた授業履修を可能にした。
- (2) 教育特別研究の履修を必修にし、教育に関する理論と実践の総合を図るとともに、教科をこえた学際的な研究に従事させることを企図した。
- (3) 課題研究は、学生の修士論文に直結する課題についての高度な授業であり、マンツーマン的方法を通して教育・研究の効果を増大させることを図る。

### 履修方法

#### (1) 履修基準(最低単位数)

##### ①研究科共通科目

教育科学特別研究(2単位)は必須科目となる。

##### ②教育領域必須科目

各教育領域内で開講される特別研究(4単位)を必修とする。

##### ③教育科学専攻内の専門科目

各領域内で開講されている専門科目の授業科目の中から選択し、14単位を選択必須とする。

##### ④教育科学専攻内の専門科目

学校教育領域、特別支援教育領域に所属する学生は、自分の所属領域以外の領域の中から4単位を選択必須とする。人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域に所属する学生は、学校教育領域、特別支援教育領域の授業を4単位選択必須とする。

※学校教育領域特別支援教育、教育実践コースに所属する学生は、③④について授業内容特論を合わせて18単位を選択必須とする。

##### ⑤課題研究

課題研究の4単位については、全て必修とする。

##### ⑥自由選択科目

自由選択科目の2単位については教育学研究科で開講しているすべての授業科目の中から2単位を選択必須とする。

#### (2) 修業年限等

標準修業年限は2年間とする。ただし、長期履修制度により修学する学生は3年間ないしは4年間の修業年限とする。

#### (3) 修士論文及び学位

本研究科に2年以上在学して、各領域・分野で定めた授業科目を含め合計30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したのものには修士(教育学)の学位が授与される。

## 教育領域の教育及び研究の概要

### 学校教育領域

学校教育領域では、研究テーマとして現代社会における教育の問題を取り上げ、多面的で高度な視点からの分析を試みる。また、他の教育領域の学生にも

今日の学校教育の意義を認識し理解を深めてもらうべく、授業を開放する。主に教育学の分野、教育心理学の分野、幼児教育の分野から成る。

### 特別支援教育領域

特別支援教育領域は、昨今の学校教育現場における様々な支援を必要とする子どもたちの問題を理解し、教育実践力をつけるための授業展開をする。開講

科目は、主に特別支援教育の分野、障害児心理学、障害児医学の分野から成る。

### 人文・社会系教育領域

比較文化・社会認識・コミュニケーション・国際理解というキーワードが、人文・社会系教育領域において、国内外の社会・文化に精通した能力を備えた人材育成を行っていくために最も重要である。これらをキーワードとすることにより、各分野間でアプローチの仕方の違いを学生に理解しやすいようにしている。

現在、我が国を取り巻く国際問題・経済問題などに、生活様式・民族性による考え方の違いに端を発して

混迷しているものが少なくない。このことはとりもなおさず、従来の高等教育機関での講義・研究システムが学生の所属する個別専門分野のみからの視点でしか捉えられず、より学際的に追究する目を鍛えてこなかったことに一因を求めることができる。

この点を念頭に置き、キーワードに沿った形で3つの分野が協働して教育課程をつくり、より広い視野で考え活躍できる教員の育成をめざしている。

### 理数・生活系教育領域

科学教育では、以前からSTS (Science-Technology-Society) 教育の重要性が指摘されてきた。STS教育は、科学・技術・社会の相互関連について適切に理解させ、社会的問題について、思慮深い意思決定に基づいた行動ができる市民の育成をめざしている。学校教育においては、「社会」は、子どもにとって最も身近な社会である「生活」と読み替えられ、教育実践が図られる。具体的には、理科教育における理科と生活との関連性の重視、あるいは、義務教育の最終段階といえる中学校理科の最終単元が「科学技術と人間生活」(すなわち、STS)である等、学習指導要領においてもSTSの考え方が随所に反映されている。

科学を担当する「理科」、技術を担当する「技術」、生活を担当する「家庭(家政)」に、これらの基礎をなす

「数学」を加えて、この4教科でグループを組むことは、科学教育にとって不可欠なSTS教育の考えにおいて必然であるといえ、上記のような教員養成に資するものであると考える。

上記のように、「理数・生活」は、科学・技術・生活の関連性の重視が特徴といえる。そのため、教育課程においても、「自然科学と技術」で科学と技術の関連性を、「科学・技術と生活(環境)」で科学・技術・生活あるいは広く環境との関連性を理解させる。それらの理解の上に立ち、学校教育においてSTSをどう扱うか、どう伝えるか、見識を深める。このように、深い見識に裏打ちされた、実践力のある教員育成をねらいとして、教育課程を構築している。

### 芸術・スポーツ系教育領域

芸術(音楽・美術)及びスポーツは、個人の身体や感覚に関わる表現活動という共通項を有する。人の健全な心身を保つために必要とされ、健やかな人間関係や社会の構築にも繋がるといふ共通する目的を、それぞれの領域がともに担っている。本研究科では、芸術・スポーツ系教育領域として一体化することによって総合的に捉え直すことができ、その結果として、芸術とスポーツという表現活動に関する人間的

な資質と能力の伸張を促す教育に関する理論的・実践的な専門研究を一体として実施することができるようにしている。

従来から大学院には専攻分野における高い研究能力や高度の専門性が求められているが、一層広い視野に立った学識を養うために、芸術・スポーツ教育領域として一元化し、多様な学修を可能としている。

## 研究領域

専攻	教育領域	分野	専攻	教育領域	分野	専攻	教育領域	分野	
教育科学	学校教育領域	学校教育	教育科学	理数・生活系教育領域	数学科教育	教育科学	芸術・スポーツ系教育領域	音楽科教育	
	特別支援教育領域	特別支援教育			代数学			器楽	
	人文・社会系教育領域	国語教育学			国語学			幾何学	声楽
		国文学			国文学			解析学	作曲・指揮法
		社会科教育			社会科教育			応用数学	美術科教育
		歴史・思想学			歴史・思想学			理科教育	美術
		地域科学			地域科学			物理学	保健体育科教育
		英語科教育			英語科教育			化学	体育・スポーツ学
		英語学			英語学			生物学	運動学
		英米文学			英米文学			地学	学校保健
		技術科教育							
		技術学							
		家庭科教育							
		家政学							

## 担当教員一覧

### 学校教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
大日方真史	准教授	教育方法学・生活指導論
佐藤 年明	教授	教育方法学・教育課程論
伊藤 敏子	教授	教育哲学
松浦 均	教授	社会心理学・教育心理学
南 学	教授	教育心理学・発達心理学
中西 良文	准教授	学習心理学
瀬戸美奈子	教授	発達臨床心理学
須永 進	教授	幼児教育学
富田 昌平	准教授	乳幼児発達心理学
吉田真理子	准教授	保育内容

### 特別支援教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
荒川 哲郎	教授	聴覚・言語障害教育
松浦 直己	教授	障害児病理・犯罪心理学
菊池 紀彦	教授	障害児心理
郷右近 歩	准教授	発達神経心理学
栗田 季佳	准教授	特別支援教育学, 教育・社会心理学

### 人文・社会系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
守田 庸一	教授	国語教育
丹保 健一	教授	国語学
余 健	教授	国語学
松本 昭彦	教授	国文学
和田 崇	講師	国文学
林 朝子	准教授	書道
永田 成文	教授	社会科教育
藤田 達生	教授	歴史学(日本史)
大坪 慶之	准教授	歴史学(東洋史)
宮岡 邦任	教授	自然地理学
磯野 巧	講師	人文地理学
内田 秀昭	准教授	経済学
馬原 潤二	准教授	政治学
秋元ひろと	教授	哲学・倫理学
早瀬 光秋	教授	英語科教育
荒尾 浩子	教授	英語科教育
西村 秀夫	教授	英語学
宮地 信弘	教授	英米文学

### 兼任教員

氏名	職名	教育・研究分野
川口 敦子	准教授	国語学
山田 雄司	教授	歴史学(日本史)
遠山 敦	教授	倫理学
澤田 治	准教授	言語学

## 理数・生活系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
中西 正治	教授	数学科教育
田中 伸明	教授	数学科教育
露峰 茂明	教授	代数学
古関 春隆	教授	代数学
新田 貴士	教授	代数学
森山 貴之	准教授	幾何学
玉城 政和	教授	解析学
肥田野久二男	教授	解析学
川向 洋之	教授	解析学
萩原 克幸	教授	応用数学
萩原 彰	教授	理科教育
平賀 伸夫	教授	理科教育
牧原 義一	教授	物理学(物性物理学)
國仲 寛人	准教授	物理学(統計物理学)
後藤太一郎	教授	生物学(動物学)
平山 大輔	准教授	生物学(植物学)
伊藤 信成	教授	地学(天文学)
栗原 行人	准教授	地学(古生物学)
魚住 明生	教授	技術科教育
松岡 守	教授	技術学(電気)
松本 金矢	教授	技術学(機械)
奥村 晴彦	教授	技術学(情報)
山守 一徳	教授	技術学(情報)
中西 康雅	准教授	技術学(材料加工)
吉本 敏子	教授	家庭科教育
林 未和子	准教授	家庭科教育
磯部 由香	教授	食物学
平島 円	教授	食物学
増田 智恵	教授	被服学
乗本 秀樹	教授	家庭管理学

## 兼任教員

氏名	職名	教育・研究分野
三宅 秀人	准教授	電子工学
寺西 克倫	教授	化学(有機化学)

## 芸術・スポーツ系教育領域

氏名	職名	教育・研究分野
川村 有美	准教授	音楽科教育
兼重 直文	教授	器楽(ピアノ)
小畑真梨子	講師	器楽(ピアノ)
弓場 徹	教授	声楽
森川孝太郎	准教授	作曲
山田 康彦	教授	美術科教育
上山 浩	教授	美術科教育
関 俊一	准教授	美術(絵画)
奥田 真澄	准教授	美術(彫刻)
岡田 博明	教授	美術(デザイン)
山口 泰弘	教授	美術(美術理論・美術史)
岡野 昇	教授	保健体育科教育
加納 岳拓	准教授	保健体育科教育
鶴原 清志	教授	体育・スポーツ学
大隈 節子	准教授	体育・スポーツ学
八木 規夫	教授	運動学
後藤 洋子	教授	運動学
富樫 健二	教授	学校保健
重松 良祐	教授	学校保健

## 現職教員の方へ

教育科学専攻に「教職実践コース」が設置されました。現職の先生は、休職しないで学べます！

近年、現職教員の皆さんから、「教科の専門的な力をつけたい」、「教具・教材の開発力を身につけたい」、「授業の方法論について専門的に学びたい」等の要望が高まっています。そこで、現職教員の皆さんが休職をすることなく、働きながら学べる大学院として、本学大学院教育科学専攻に「教職実践コース」を設けました。この「教職実践コース」は、現職教員で実際に教育現場において、授業を実施している方が選択できます。週2日以上の上通学が可能な場合は2年で修了可能ですが、週1日の通学の場合は、長期履修制度(3年or4年)をご利用ください。なお、従来の教育科学専攻は、「教育開発コース」として区分されます。「教職実践コース」では、教育領域に関する専門的知識を学修し、専門的な研究を進める意欲がある現職教員を求めています。

## 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有する等の個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限（2年）を超えて履修し、学位等を得できるようにする制度で、修業年限は最大で4年間となります。ただし、「職業を有する等の事情による長期履修」は原則として社会人を対象とし、経済的理由等は認められません。

また、授業料は2年間（標準修業年限）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期）に支払うこととなります。

**【授業料（予定額）の納入例】** \* 授業料総額 1,071,600円（予定額）

■ **標準修業年限（2年）** 1,071,600円 ÷ 2年 = 535,800円

1年目（535,800円） 2年目（535,800円）

■ **長期履修による、3年間の履修学生** 1,071,600円 ÷ 3年 = 357,200円

1年目（357,200円） 2年目（357,200円） 3年目（357,200円）

■ **長期履修による、4年間の履修学生** 1,071,600円 ÷ 4年 = 267,900円

1年目（267,900円） 2年目（267,900円） 3年目（267,900円） 4年目（267,900円）

また、本研究科では教育職員免許状取得のために長期履修制度を利用することができます。

教育に強い関心を持つ学生に対し、学部授業（教育実習・介護等体験を含む）の受講を認め、希望する教育職員免許状（原則として1種類）を取得させることを目的としています。（受け入れ人数は10名程度とします。）

なお、長期履修制度を希望する者に対しては出願に先立ち出願可否審査を行います。このことについての相談・問い合わせは三重大学教育学部チーム学務担当まで連絡ください。

## 大学院説明会のご案内

大学院説明会では、各教育領域の特徴や入学者選抜の方法、実際の研究生生活などについて説明するほか、各教育領域の担当教員が直接皆さんの質問にお答えいたします。事前の申し込みは不要です。お気軽に参加ください。

日時

第1回 平成29年 5月20日（土）…………… 14:00～16:00

第2回 平成29年11月18日（土）…………… 14:00～16:00

\*受付は13:00から始めます。参加費は無料です。

会場

三重大学教育学部

専門校舎1号館4階 大会議室

プログラム

・全体会 …………… 14:00～15:10

教育学研究科の概要

平成29年度入学者選抜について

修学方法について

長期履修について

・修学方法について教育領域別面談 …………… 15:10～16:00

教育領域の概要

教員の研究分野紹介

## アクセス

### 電車：近鉄急行

名古屋―江戸橋 約60分

### 近鉄特急

名古屋―津 約50分

難波―津 約90分

京都―津 約110分

(津で急行または普通に乗り換え)

津―江戸橋 約2分

### JR快速みえ

名古屋―津 約50分

**車**：津駅前バスのりば「4番」から三交バス「白塚駅前」「太陽の街」「三重病院」「椋本」「豊里ネオポリス」「サイエンスシティ」「高田高校前」「三行」行きで「三重大学前」下車。

津駅からタクシーで約10分

**徒歩**：近鉄江戸橋駅から徒歩で15分

**飛行機**：中部国際空港（セントレア）―津なぎさまち  
高速船 40分

なぎさまちよりタクシーで約15分 または三交バス  
「津駅前」行きで「津駅前」乗り換え「三重大学前」下車。



## 問い合わせ先

### □大学院全般のお問い合わせ

三重大学教育学部チーム 学務担当 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

Tel：059-231-9319 【電話によるお問い合わせは平日（8:30-17:15）のみ】

Fax：059-231-9352

E-mail：edu-gakumu@ab.mie-u.ac.jp （Fax・メールは常時受け付けています）

URL：http://www.edu.mie-u.ac.jp/

### □各教育領域についての問い合わせは、以下の教育領域代表者に直接お願いします。

教育領域	教育領域代表者	メールアドレス	電話番号
学校教育領域	瀬戸美奈子	sminako@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9327
特別支援教育領域	郷右近 歩	goukon@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9257
人文・社会系 教育領域	余 健	yeoken@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9208
	永田 成文	snagata@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9225
	荒尾 浩子	arao@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9306
理数・生活系 教育領域	田中 申明	ntanaka@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9231
	平賀 伸夫	hiraga@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9330
	魚住 明生	uozumi@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9307
	吉本 敏子	ytoshiko@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9304
芸術・スポーツ系 教育領域	弓場 徹	tyuba111@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9272
	関 俊一	seki@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9264
	重松 良祐	rshige@edu.mie-u.ac.jp	059-231-9294